

中国秋季リーグ戦女子2部結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

10/5～6に広島大学北体育館において、中国秋季リーグ戦男女2部が開催されました。

広島大学女子の結果は、以下のとおりです。

vs 広島修道大学

○2-1 (25-15、22-25、25-18)

vs 川崎医療福祉大学

●1-2 (25-18、27-29、21-25)

vs 周南公立大学

●1-2 (25-16、18-25、23-25)

vs 山陽学園大学

○2-0 (25-17、25-11)

vs 山口大学

●1-2 (12-25、25-19、8-25)

1位 山口大学 5勝0敗

2位 周南公立大学 4勝1敗

3位 広島大学 2勝3敗

4位 川崎医療福祉大学 2勝3敗

5位 山陽学園大学 2勝3敗

6位 広島修道大学 0勝5敗

(写真集ページ (中国学連 HP))

<https://chugoku.hiroshima-u.ac.jp/sonota-top.html>

2部リーグ戦でわずか2勝、入替戦も圏外となる3位に終わりましたが、この結果には何一つ驚きません。中四国で西岡(1年・兵庫・姫路高校)、光本(1年・岡山城東高校)の両レフトと言う今秋の形が出来ておきながら、翌週の国体予選であっさりと元のポジションに

戻したことが、今年の大きなターニングポイントでした。今のメンバーを軸にしたチームづくりを行う時間は十分にありましたが、スターティングとポジションの見直し、格上との目立った強化試合もなく、チームの核となる2年生に危機感と競争心が生まれなかったことで、最も最悪な怪我の連鎖が起こり、経験が足りないままリーグ戦を迎えることになりました。組織やチーム状態と言うのは、一番立場の弱い人、アップゾーンの一番隅や奥の選手を見ると分かりますが、いつも練習しているコートとは到底思えないほどサーブミスを連発した1日目と、悔し涙に明け暮れた2日目の2試合日以降では、もはや別のチームになっていました。負けたら自力での入替戦出場が途絶える、周南戦の相手マッチポイントの場面でも、本格的に初のファーストリベロになった大嶋(2年・和歌山・桐蔭高校)は、相手の強いサーブをAキャッチで返球しました。また、山大戦の2セット目は、相手が消化試合でミスが重なったとは言え、両センターが6ローテ入る明らかに不利な状況でも、ここまで失セット0の相手を圧倒しました。これだけのことが、今のメンバーでできる力があただけに、2年生以上の上級生はこの半年間をしっかりと振り返って欲しいと思います。残念ながら、失った時間は、もう二度と戻ってきません。

ただ、その状況下でありながら、会場にいた人たちが目撃したのは、女子2部の新しい時代を告げる若き1年生エース、西岡の今秋からの背番号「広島大学の11番」の誕生でした。昨年の4年生エース・有川がやっていたことをやっている、と応援に来てくれた02生が言ったように、センターとライトが単調な攻撃しかできない中でも、中から外、外から中に動いて相手を揺さぶり、軟打は前後と強弱を使い分け、最終戦ではライトからインナーに打ち込んでレシーバーを弾き飛ばしました。柔らかいレシーブでキャッチもディグもこなし、ブロックでも得点をあげる姿を見た相手コートと2階席からは、ちょっと止めようがない、と口を開けざるを得ないほど、特に気持ちが入った2日目は、おそらく西岡自身も新しいステージに入ったことを実感したと思います。入部以降、日を増すごとに着実に力をつけられるその理由は、何となくの感覚に頼るのではなく、非常に理論的で、上達のための研究を惜しまないことにあるのだらうと思います。成功体験を追いかけるのではなく、失敗したこと、できないことほどよく向き合い、どうしたらできるようになるかを、いつも、誰よりも考えていることが伝わってきます。チームの方針もよく理解して、割り切って仲間に任せられるので、試合を重ねるにつれて、特に対角の光本が攻守で見ると見ると遅くなっていったことが非常に印象的でした。自分の成長とチームの成長に欠かせない、吸収力、共有力、発展力の全てを兼ね備えており、学年が上がるとさらに出来ることが増えるのは間違いありません。自分の課題、そしてチームの課題も認識できていると思いますので、またこれからの日々でステップアップできるように頑張ってください。

入替戦の出場を逃し、今年の残る公式戦が県インカレのみとなったからには、4年生がいてくれるこの貴重な1か月間で、来春に向けたチームづくりを進めなければいけません。ど

こよりも早くスタートできるのは今夏と同じです。同じ轍を踏まないために、来春全勝で入替戦に進むために欠かせないことは、ブロックができるセッターを育成すること、これに尽きます。本当は今夏から取り組んで欲しかったことですが、今やりベロとレフトとして確固たるポジションを手に入れた大嶋と光本がトスを上げているのを見て、半年遅らせざるを得ませんでした。ブロックができ、セットアップの位置が上がることで、今は持っている力と結果が一致していないセンターの中道（1年・広島・基町高校）の得点が間違いなく増えます。そうすると、今は相手2枚が当たり前の西岡、光本のブロック枚数が0.5以上確実に減りますので、ようやく試合を組み立てることができるようになるでしょう。中国女子の1部と2部の決定的な違いはセンターラインですので、今月末の1部の広島ラウンドを見て使い方や動き方をしっかりと学び、県インカレで実践して欲しいと思います。チーム全体として、バレーボールの知識がまだまだ足りていません。何となく思っている、口に出すとみんなと考え方が違うのが今の状況です。特に、チームの核である2年生の知識が不足していますが、2年生の良いところは、分からないことを分からないと大きな声で言えることです。2年生が分からないと言うことで、分からない1年生は救われます。もしかすると上級生も救われるかもしれません。怪我人の復帰を焦らせることがないように、勉強会も効果的に開催し、チームとして最も成長できる1か月間を過ごしましょう。

今週末からは男女1部が開幕します。
引き続きよろしく願いいたします。